

4 節 | 経済の成長と幕政の改革

なぜ、幕府の政治改革は繰り返されたのだろう。



2 備中ぐわ（左）と、千歯こぎ（右）

1 江戸時代の農具の進歩
 『老農夜話』
 東京大学史料編纂所蔵

それぞれどのような作業をしているのかな。



世紀	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
縄文	弥生		古墳		飛鳥	奈良		平安		鎌倉	南北朝	室町	戦国	安土桃山	江戸	明治	大正	昭和	平成	令和	

13 将軍のおひざもと、天下の台所

経済の発達と都市の繁栄

学習課題？ 江戸時代には、産業や流通はどのように発達したのでしょうか。

新田開発と農業 幕府や藩は年貢の増収を図り、
 百姓は生活の向上を願い、沼地を干拓するなどし

126 ~ 127 - 1

● 第4章 近世の日本と世界

- B4の用紙で印刷してください。
- 点線で切ると実際の大きさになります。

て新田開発を進めました。開発を請け負う町人も現れ、耕地面積は急速に広がりましたが³、開発のしすぎで洪水が起こることもありました◆。

近畿地方の進んだ農業技術は、農法を記した農書の出版などによって各地に広まりました。農具では、田畑を深く耕せる鉄製の備中ぐわ²や、千歯こき²、唐箕が使われるようになり¹、肥料も、糞尿や草木灰^{p.69}のほかに、干鰯や油粕¹などを購入して用いるようになりました。こうして、作業の能率や生産量が上がっていきました³。

産業と流通の発達 一方、建築の資材や紙、燃料の需要が増えたことから、林業が盛んになりました。木を伐採し、加工する道具や技術が改良され、材木や薪・炭を扱う商人も増えました◆。水産業では、漁網などの改良で漁獲量が増え、網元による大規模な漁も行われました。九十九里浜（千葉県）のいわし漁、土佐（高知県）や紀伊（和歌山県）のかつお・くじら漁、蝦夷地の鮭・にしん漁⁴などが盛

- ・ B4の用紙で印刷してください。
- ・ 点線で切ると実際の大きさになります。

んになり、魚は肥料や油の原料としても利用されました。塩田えんでんによる塩の生産も発達し、主に関西かんさいでつくられていたしょう油は、関東かんとでも大量生産が始まりました。また、各地の鉱山²の開発も進み、幕府は、江戸えどに設けた金座きんざ・銀座ぎんざなどで、金貨・銀貨・銭せん（銅）貨か⁷をつくって全国に流通させました←p.114。

年貢米は、幕府や藩の財政を支える重要な商品として、大阪おおさかや江戸に送られました。水上の輸送路として、江戸・大阪間のほか、日本海側から江戸・大阪へ運ぶ東まわり航路や西まわり航路も開かれ、米や酒、油などの重い荷や各地の特産物かいせんが廻船で運ばれました巻末¹→。綿わたね・菜種あい・藍さいばいなどの栽培が各地に広まり、養蚕ようさん・織物業が盛んになると、輸送で人や物が行き交かい、街道かいどう^{p.128}→がにぎわいました。

にぎわう都市 商業や交通が発達すると、各地の城じょう下町かまち・港町しゅくばまち・宿場町もんぜんまちなど←p.82, 85がにぎわい、なかでも大きく発展した江戸・大阪・京都きょうとは

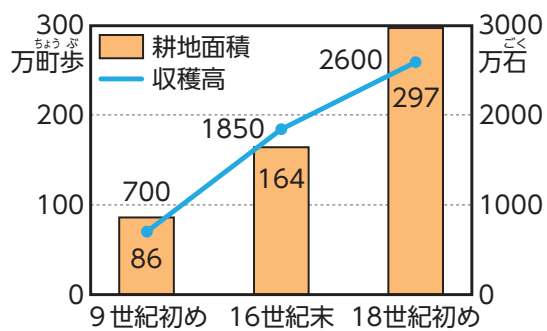
126 ~ 127 - 3

- ・ B4の用紙で印刷してください。
- ・ 点線で切ると実際の大きさになります。

さん と
三都とよばれました。江戸は、政治の中心地として
しょうぐん
「将軍のおひざもと」とよばれ、18世紀の初めには人口100万人をこえましたp.140→。大阪は、商業の中心地として「天下の台所」とよばれ、各藩の蔵
やしき こ
屋敷に運び込まれた年貢米p.132→や特産物の取り引きで発展しました⁵。京都は、伝統ある文化の中心地で、西陣織にしじんおりなどの高度な手工業しゅこうぎょうが発達しました。

都市では、問屋といや・仲買なかがいなどの商人が力を強めました。同業者ごとに株仲間とんや かぶなかまをつくり、幕府に営業税をおさ納めるかわりに営業の独占どくせんを許され、大きな利益を上げました。三都を中心に金・銀・銭の貨幣かへい こうかんを交換する両替商りょうがえしょうも増え、江戸の三井みつ い⁶や大阪の鴻池こうのいけのように、財政の苦しい藩に金を貸し付ける有力な商人も現れました。

- ・ B4の用紙で印刷してください。
- ・ 点線で切ると実際の大きさになります。



3 全国の耕地面積と収穫高の
移り変わり



4 蝦夷地のにしん漁
〈『松前檜山屏風』
函館市中央図書館蔵〉



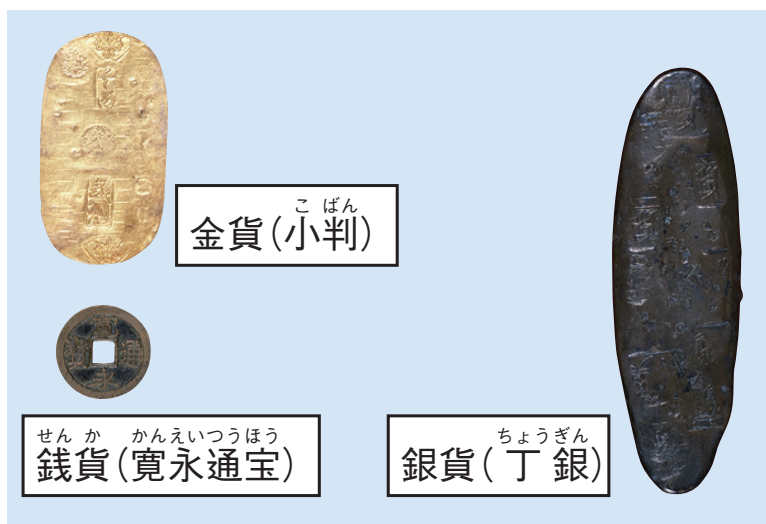
5 にぎわう大阪の港
〈『菱垣新綿番船川口出帆之図』
大阪城天守閣蔵〉



6 三井家が江戸に開いた
越後屋呉服店
どのような売り方をしているで
しょうか。

126 ~ 127 - 5

- B4の用紙で印刷してください。
- 点線で切ると実際の大きさになります。



金貨(小判)

銭貨(寛永通宝)

銀貨(丁銀)

7 江戸時代に使われた
主な貨幣

1 干鰯^{ほしか}は、いわしを日干しにしたもので、油粕^{あぶらかす}は、菜種^{なたね}な
どから油をしぼったかすのことです。

2 佐渡金山^{さどきんざん} (新潟県^{にいがた})、石見銀山^{いわみぎんざん} (島根県^{しまね})、生野銀山^{いくのひょう} (兵
庫県^ご)、別子銅山^{べっしどうざん} (愛媛県^{えひめ})、足尾銅山^{あしおとちぎ} (栃木県^{とちぎ}) などがあります。

◆ **[解説]** 開発と保全 新田開発^{しんでん}や林業^{さか}が盛んになると、森林
が減少し、洪水^{こうずい}や土砂災害^{どしゃ}が起こりやすくなりました。幕府^{ばくふ}は、
森林伐採^{ばっさい}を制限したり、植林^{ちりん}を行ったりするなど、森林の保全
に取り組みました。

確認 ! 江戸時代に米の生産量が増えたわけを確かめよう。

表現 ! 商人が、力をつけていったのはなぜか説明しよう。

126 ~ 127 - 6

- B4の用紙で印刷してください。
- 点線で切ると実際の大きさになります。